

クスリにハマる女 溺れる男

覚せい剤・危険ドラッグだけじゃない

薬物依存の実態

女と男で何が違う？女性の回復施設が少ない…

クスリと言えば、芸能人の覚せい剤依存や、一般人の危険ドラッグ使用による交通事故を連想しますが、ほかにも気になる薬物がいろいろ。処方薬（安定剤・睡眠薬等）は違法ではありませんが、使っているうちに依存症になる危険性が指摘されています。依存を引き起こす薬物の種類や、回復方法、家族はどうすれば良いか、女性と男性では何か違いがあるのか…などなど、ニュースでは教えてくれないことを話してくれる講師は、上岡陽江さん。ご自身もアルコール依存症・摂食障害からの回復者です。ダルク（DARC）については裏面をごらんください。回復した薬物依存症の体験談も聞きます。

日時 2017(平成29)年**2月15日(水)**午後1:30～4:00(開場1時)

きょうふうかいかん

会場 矯風会館 1階ホール JR 大久保駅北口徒歩2分 JR 新大久保駅徒歩5分

かみおかはる え

講師 **上岡陽江さん(ダルク女性ハウス代表)**

体験談 薬物依存症回復者

対象 関心のある方ならどなたでも **定員** 60名

参加費 無料 **託児** あり 2月1日(水)までに要予約 (先着3名まで)

申込み・託児予約 1月17日(火)から下記で受け付けます。

新宿区男女共同参画推進センター(ウィズ新宿) 下記の電話または FAX へ (裏面参照)

電話 : 03-3341-0801 (日・月・祝除く 8:30～17:00) FAX : 03-3341-0740

お問合せ電話 : 矯風会 03-3361-0934(月～金曜 9:30～17:00) 担当 : かわたに

主催 : 公益財団法人日本キリスト教婦人矯風会

新宿区子ども家庭部 男女共同参画課

東京都新宿区百人町 2-23-5

東京都新宿区荒木町 16 ウィズ新宿

かみおかはる え

上岡陽江さん プロフィール

1957年生まれ。ダルク女性ハウス代表。精神保健福祉士。

ぜんそくで入退院を繰り返すなかで処方薬依存となり、摂食障害、アルコール依存症も体験。回復の過程で、薬物依存症に苦しむ女性のためのリハビリ施設「ダルク女性ハウス」を1991年に設立した。

依存症の親を持つ子どものプログラム作りや、刑務所内の教育プログラムにも関わっている。

共著に『虐待という迷宮』（春秋社）、『その後の不自由』（医学書院）など。

ダルク(DARC) ドラッグ・アディクション・リハビリテーション・センターの頭文字。

近藤恒夫さんが、故ロイ神父のサポートを得て設立した。薬物依存症から回復したいと望む人々の、デイケア・ナイトケアをしている民間施設。スタッフも薬物依存症回復者。1日3回のミーティング参加などが主なプログラム。全国各地に約60か所あるが、女性が宿泊できる施設は、上岡陽江さんが作ったダルク女性ハウス(東京)、ダルク女性ホーム(大阪)など数か所のみ。いずれも所在地は非公表。

ウイズ新宿 男女共同参画社会の実

現を目指す、新宿区立男女共同参画推進センターの愛称。集会室、資料室等あり。

DV 防止啓発講座等多数開催。

地下鉄都営新宿線 曙橋駅から徒歩3分。

日本キリスト教婦人矯風会

1886年12月、キリスト者女性が中心となって設立。廃娼運動や酒害啓発、女性の参政権獲得、世界平和などの活動を続け、全国の会員がそれぞれの地に女性と子どものための福祉施設を造った。現在は、女性の人権事業を継続するほかに、女性の福祉事業として、国籍を問わない女性と子どもの緊急避難施設「女性の家 HELP」、居場所を無くした単身女性のための中長期滞在施設「矯風会ステップハウス」を運営している。(2施設は所在地非公表)

アルコール・薬物等アディクション問題の電話相談、グループミーティング等も開催。(無料、予約制)

矯風会館地図



東京都新宿区百人町2-23-5

JR 大久保駅北口下車 徒歩2分

改札を出たら道路(大久保通り)を渡る。薬局と富士そばの間の細い道に入る。頭の上にはJRのガードあり。

約20メートル先の右側のクリーム色4階建ての建物が矯風会館。正面ドアからお入りください。

JR 新大久保駅からも徒歩5分。

FAX 申込み用紙 送信先 FAX 番号 03-3341-0740 [受付開始:1/17(火)~]

2017年2月15日(水)「薬物依存の実態」の講座に参加します。

氏名

電話番号

* 託児希望者は電話(03-3341-0801)で2月1日(水)までにお申し込みください。(先着3名)